

令和8年度アクションプラン

今年度のアクションプランです。本校のアクションプランは、「知」「徳」「体」の3つの視点から設定しております。学校運営方針を基にそれぞれ、昨年度の反省を踏まえた重点課題、目標、1学期の取組内容（方策）を示しております。

ご家庭でも、夕食時の話題にあげていただくなどして、アクションプランの目標が達成できますようご協力いただけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

【知】重点課題	学習の習慣化、基礎・基本の定着、反復練習の重視
目標	「自主的に学習ができる生徒」（下記の目標に対し肯定的に回答した生徒）80%以上 実践目標：「その日の授業に関連する学習（宿題や復習）に終学活以降の時間を使って自分から取り組もうとした」生徒が80%以上
取組内容 （方策）	【学習指導】 ① 課題に対する<u>自主的な取組</u>を促す工夫 A：「学活ノート」の活用 →担任が毎日生徒の学習時間をチェックし、賞賛したり励ましたりする。 →週末に自分で学習計画を立て、達成できそうな学習予定を簡単に立てさせる。 B：定期的な振り返りの機会の確保 →終学活時に個人で振り返る時間を設定し、授業に対する自身の取り組み（what「なにをした」）や放課後の計画（now what「これからどうする」）を省察（リフレクション）し、学習に向かう気持ちや自分で決めたことに取り組む意欲をもたせる。 →月末に一日の時間の使い方を振り返る機会を設ける。 C：教員の工夫 →生徒が自ら計画的に学習に取り組めるように早めに課題を提示する。 →短時間で完成でき、授業やテストに役立つ（やって得する）課題を準備する。 →生徒の意欲を引き出すような宿題の点検、評価を工夫する。例：ABC評価やご褒美シール →家庭学習で何をすればいいか、具体的に紹介する。紹介した方法でやってみる時間をつくる。 ② 授業改善（A：自ら取り組んでみたい、調べてみたいと思えるような学習課題の工夫 B：定期的な終末の振り返りの機会の設定） ・授業とのつながりを考えた課題や、課題で取り組んだことを生かした授業を工夫する。 ・映像資料の活用（NHK for スクールなどのコンテンツ） ・授業中の自己の考えの変容を見つめ、わかるようになったことやまだ分からないこと、なぜ分かったかやなぜわからないのかを振り返りながら、「これから何をするか」を自分で決め、前向きに学習に向かえる素地を育てる。 【生徒会活動】 学習委員会で、家庭学習に向かうきっかけや早中みんなで学習環境を工夫しようとする雰囲気を醸成していく。 ・終学活時に、学習委員会がクラス全体へ自習室開設を呼びかける。 ・自習室参加者にスタンプカードを配布し、継続して利用したい気持ちを促進する。 ・スタンプカードの特典（早中祭イベントでのアドバンテージ等）の設定。 ・学習委員中心に、他の生徒の学習方法（よい課題の取組例やテストの勉強の仕方等）を共有し、掲示物等で発表する。

【徳】重点課題 互いの価値や存在を尊重し合うことができる心の育成	
目標	「互いに認め合える生徒」80%以上 ※人間関係づくり活動を通して、生徒同士の人間関係の醸成に努める。
取組内容 (方策)	【教科や道徳指導】 ① 教科や道徳、特別活動の導入場面で、アイスブレイクの活動（SST）を取り入れることで対人関係におけるスキルを学びながら緊張をほぐして、関わり合いやすい雰囲気をつくる。展開場面でのペアやグループでの活動が安心して円滑に進められるよう、機会を捉えて実施する。 ② 活動後のフィードバック（振り返り）を大切にする。口頭やメッセージカードで他の人のよいところを伝える。その際、「happy（されてうれしかった）」「thank you（してもらって感謝したい）」「nice（すてきだな、マネしたいな）」という話型を提示し、「行動」と「気持ち」を合わせて伝えと効果的であると助言する。 【特別活動等】 学活や終学活の時間を利用して、ペアトークの活動を行う。聞き方・話し方に気を付けながら様々なトークテーマで普段関わらない級友とも話し、友達の話に分かろうとする経験を積む。 【生徒会活動】 様々な行事等に取り組むにあたり、学年間や学年を超えた集団で、試行錯誤しながらも生徒たちの力で完結させる。こうした「チーム体験」を通して得た達成感や所属感、他者貢献といった感情の変容を実感させながら積み重ね、日々の活動への意欲につなげる。

【体】重点課題 規則正しい生活リズムづくりを中心とした健康な生活の実践	
目標	「メディアコントロールを心がける生徒」80%以上
取組内容 (方策)	① ルールの定着を図る ・早月ネットルールの周知を図るため、教室や各学年のフロアに掲示し、生徒保健委員会から呼びかける。 ・早月ネットルールに基づいた「メディアコントロールデー」を定期的に設け、定着を図る。その結果をクラスごとにまとめ、放送で全校生徒に報告したり、生徒玄関等に掲示したりすることで、全校生徒の意識の向上を促す。 ② 早寝・早起き・朝ごはん＆メディアオフ週間の実施 ・生徒が自らの生活を見つめ直し、改善策を考えて取り組む期間を設ける。 ・この週間においては、メディア利用に限らず、学習時間や睡眠時間等の家での過ごし方に見通しをもって取り組めるよう、事前に家での過ごし方を考えさせる（生徒自身が帰宅後から翌朝までの時間の使い方を考え、用紙に記入し、それを目標に「早寝・早起き・朝ごはん＆メディアオフ週間」に取り組む）。 ・保健だよりや安心安全メールを通して、家庭での保護者の協力を呼びかける。 ・事後には、目標達成度調査だけでなく、達成できた理由や達成できなかった要因を生徒が振り返り、生徒が自分を見つめ、生活改善の方法を考えられる機会を設ける。